

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-163	高等学校	地理歴史	世界史A	1～3
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
7 実教	世A312	新版世界史A 新訂版		

## 1. 編修の趣旨及び留意点

教科書の編修にあたっては、豊富な資料と平易でわかりやすい記述により基本的な歴史事項をおさえることができるよう配慮した。そのさい、地理的条件との関連付けに加え、世界の歴史を我が国の歴史と関連付けながら理解させるよう工夫した。

本文記述を様々な観点から補うコラムを多数設け、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うようにした。また、地図や写真など図版を豊富に掲載することにより、世界の各地域とその歴史をイメージ豊かに学習できるようにした。

さらに、生徒がさまざまな図版資料や統計資料を活用しながら主体的に学び、歴史的思考力を培うことができるように工夫し、日本国民として国際社会で主体的に生きていく力の育成を図った。

## 2. 編修の基本方針

○2条の目標を達成するため、次の通り編修した。

- ・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、社会史をはじめとする歴史学の新しい研究成果をとり入れ、さまざまな角度から世界史学習をより深めることができるコラムを設けた（第1号）。
- ・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、歴史上の著名な人物をコラム「Key Person」で取り上げ、彼らその能力や創造性によって世界史上に果たした意義などを記述した。また、生徒が主体的に学習できるよう「考えてみよう」「やってみよう」という問いかけ文を各ページに入れたほか、課題例を盛り込んだ「世界史へのいざない」ページや主題学習ページを設けた（第2号）。
- ・男女の平等を重んずる態度を養う観点から、コラム「key Person」で各時代・地域の女性を多く取り上げた（第3号）。
- ・生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養う観点から、第1・2章の特集「歴史の舞台」で諸地域世界の自然環境を扱ったほか、地球環境問題と国際的な取り組みについての記述を掲載した（第4号）。
- ・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養う観点から、同時代の世界と日本の関わりを示す事例を取り上げたコラム「日本と世界」を設けたほか、各見開きから後見返しの「日本の歴史」年表を参照できるようにした（第5号）。

### 3. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
前見返し	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養う観点から、地勢図によって世界の自然環境を概観できるようにした（第4号）。</li> </ul>	前見返し 1～2
折り込み	<ul style="list-style-type: none"> <li>幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、各世紀の諸地域の交流・関係を概観できるようにした（第1号）。</li> </ul>	折り込み 1～8
世界史への いざない	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養う観点から、オランダを事例に世界の風土と人々の生活との関わりについて記述した（第4号）。</li> <li>伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養う観点から、江戸時代の日本とオランダの関わりについて記述した（第5号）。</li> <li>自主及び自律の精神を養う観点から、生徒が主体的に学習できる課題例を設けた（第2号）。</li> </ul>	p. 6  p. 7  p. 6～7
第1章	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養う観点から、東アジア、南アジア、東南アジア、西アジアと地中海、アフリカ、ヨーロッパの自然環境の特色とそれに適応した人々の営みについて記述した（第4号）。</li> <li>幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、社会史などの最新の研究成果をとりいれ、多様な角度から世界史学習を深めることができるコラムを設けた（第1号）。</li> <li>幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、本文を理解するうえで重要な概念や用語について丁寧に解説した「補説」を設けた（第1号）。</li> <li>自主及び自律の精神を養う観点から、生徒が興味関心をもって主体的に世界史学習に取り組めるよう、各見開きの冒頭などに、図版を活用して考えさせたり作業させる問いかけ文を置いた（第2号）。</li> <li>個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、歴史上の著名な人物をコラムで取り上げ、その能力や創造性によって世界史上に果たした意義などについて記述した（第2号）。</li> <li>男女の平等を重んずる態度を養う観点から、世界史上の著名な女性をコラムで取り上げた（第3号）。</li> <li>伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養う観点から、世界と日本の関わりを取り上げたコラムを設けた（第5号）。</li> </ul>	p. 12～13, 24～25, 30～31, 34～35, 50～53  p. 21, 28, 36, 43, 49, 50, 52  p. 12, 27, 45, 46  p. 10, 14, 21, 28, 32, 38, 41, 44, 48, 54, 57など  p. 10, 14, 15, 16, 26, 33, 37, 39, 44, 45, 47, 50, 54, 60など  p. 19, 56, 57  p. 13, 19, 23, 29, 61

<p>第2章</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養う観点から、アメリカの自然環境の特色とそれに適応した人々の営みについて記述した（第4号）。</li> <li>・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、社会史などの最新の研究成果をとりいれ、多様な角度から世界史学習を深めることができるコラムを設けた（第1号）。</li> <li>・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、本文を理解するうえで重要な概念や用語について丁寧に解説した「補説」を設けた（第1号）。</li> <li>・自主及び自律の精神を養う観点から、生徒が興味関心をもって主体的に世界史学習に取り組めるよう、各見開きの冒頭などに、図版を活用して考えさせたり作業させる問いかけ文を置いた（第2号）。</li> <li>・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、歴史上の著名な人物をコラムで取り上げ、その能力や創造性によって世界史上に果たした意義などについて記述した（第2号）。</li> <li>・男女の平等を重んずる態度を養う観点から、世界史上の著名な女性をコラムで取り上げた（第3号）。</li> <li>・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養う観点から、世界と日本の関わりを取り上げたコラムを設けた（第5号）。</li> </ul>	<p>p. 70～71</p> <p>p. 70, 80, 86, 87</p> <p>p. 74, 76</p> <p>p. 66, 68, 72, 74, 76, 78, 80, 82, 86, 88, 90など</p> <p>p. 66, 67, 72, 75, 76, 77, 79, 82, 83, 84, 87, 88, 91など</p> <p>p. 79</p> <p>p. 69, 73, 89, 90</p>
<p>第3章</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、社会史などの最新の研究成果をとりいれ、多様な角度から世界史学習を深めることができるコラムを設けた（第1号）。</li> <li>・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、本文を理解するうえで重要な概念や用語について丁寧に解説した「補説」を設けた（第1号）。</li> <li>・自主及び自律の精神を養う観点から、生徒が興味関心をもって主体的に世界史学習に取り組めるよう、各見開きの冒頭などに、図版を活用して考えさせたり作業させる問いかけ文を置いた（第2号）。</li> <li>・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、歴史上の著名な人物をコラムで取り上げ、その能力や創造性によって世界史上に果たした意義などについて記述した（第2号）。</li> <li>・男女の平等を重んずる態度を養う観点から、世界史上の著名な女性をコラムで取り上げた（第3号）。</li> <li>・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養う観点から、世界と日本の関わりを取り上げたコラムを設けた（第5号）。</li> </ul>	<p>p. 101, 105, 109, 111, 113, 119, 121</p> <p>p. 93, 97, 99, 104, 123</p> <p>p. 92, 94, 98, 100, 102, 112, 115, 118など</p> <p>p. 92, 95, 98, 100, 102, 105, 108, 111, 113, 121など</p> <p>p. 96, 97, 117, 124</p> <p>p. 107, 115, 119</p>

<p>第4章</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、社会史などの最新の研究成果をとりいれ、多様な角度から世界史学習を深めることができるコラムを設けた（第1号）。</li> <li>・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、本文を理解するうえで重要な概念や用語について丁寧に解説した「補説」を設けた（第1号）。</li> <li>・自主及び自律の精神を養う観点から、生徒が興味関心をもって主体的に世界史学習に取り組めるよう、各見開きの冒頭などに、図版を活用して考えさせたり作業させる問いかけ文を置いた（第2号）。</li> <li>・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、歴史上の著名な人物をコラムで取り上げ、その能力や創造性によって世界史上に果たした意義などについて記述した（第2号）。</li> <li>・男女の平等を重んずる態度を養う観点から、世界史上の著名な女性をコラムで取り上げたほか、19世紀末以降の女性の社会進出と参政権獲得の歴史について記述した（第3号）。</li> <li>・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養う観点から、世界と日本の関わりを取り上げたコラムを設けた（第5号）。</li> </ul>	<p>p. 134, 137, 149, 159</p> <p>p. 138</p> <p>p. 128, 132, 136, 140, 142, 146, 152など</p> <p>p. 128, 131, 132, 135, 142, 144, 150, 152, 157など</p> <p>p. 133, 143</p> <p>p. 135, 139, 151</p>
<p>第5章</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養う観点から、社会史などの最新の研究成果をとりいれ、多様な角度から世界史学習を深めることができるコラムを設けた（第1号）。</li> <li>・自主及び自律の精神を養う観点から、生徒が興味関心をもって主体的に世界史学習に取り組めるよう、各見開きの冒頭などに、図版を活用して考えさせたり作業させる問いかけ文を置いた（第2号）。</li> <li>・自主及び自律の精神を養う観点から、生徒が課題を設定して主体的に学習するための主題学習ページを設けた（第2号）。</li> <li>・個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養う観点から、歴史上の著名な人物をコラムで取り上げ、その能力や創造性によって世界史上に果たした意義などについて記述した（第2号）。</li> <li>・男女の平等を重んずる態度を養う観点から、世界史上の著名な女性をコラムで取り上げた（第3号）。</li> <li>・自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う観点から、地球環境問題とそれに対する国際的取り組み、紛争や核廃絶、経済格差など国際社会が取り組むべき課題などについて記述した（第4号、第5号）。</li> <li>・伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重する態度を養う観点から、世界と日本の関わりを取り上げたコラムを設けた（第5号）。</li> </ul>	<p>p. 176</p> <p>p. 160, 162, 164, 166, 168, 170, 174など</p> <p>p. 182～183</p> <p>p. 161, 162, 167, 168, 171, 173, 175, 177, 179など</p> <p>p. 174</p> <p>p. 180～181</p> <p>p. 160, 163, 169, 172</p>

後見返し	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他国を尊重し，国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う観点から，現在の世界地図を掲載した(第5号)。</li> <li>・伝統と文化を尊重し，それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養う観点から，日本史上の主要な出来事をまとめた年表を置き，本文ページから参照できるようにした(第5号)。</li> </ul>	後見返し 5～6  後見返し6
<b>4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育法第五十一条三項（社会について，広く深い理解と健全な批判力を養い，社会の発展に寄与する態度を養うこと。）に即して，本文記述や特集など教科書全体を通じて，国際社会に生きる高校生が世界の歴史を日本の歴史と関連付けながら理解し，現代社会が抱える課題についても考察することができるよう配慮した。</li> </ul>		

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-163	高等学校	地理歴史	世界史 A	1～3
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
7 実教	世 A 312	新版世界史 A 新訂版		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

「世界史 A」が地理歴史科の必修科目であることを鑑み、生徒が興味・関心を持ちながら、基礎的・基本的な事項を無理なく学習できるように、以下の点について配慮した。

- 1) 近現代を中心とする世界の歴史の大きな枠組みと展開を理解し、興味・関心をもって楽しく世界史を学べるよう、全編にわたって平易な文章表現でわかりやすく記述した。
- 2) 地図や写真など図版を豊富に掲載することにより、世界各地域とその歴史をイメージ豊かに学習できるようにした。また、各見開きのタイトル横に小さな「世界地図」を置き、見開きで学習する地域が世界地図上のどこに位置するのか確認できるようにした。
- 3) 多様な視点から世界史学習を深め、生徒の興味・関心を高められるよう、社会史などの新しい研究成果を盛り込んだ「コラム」を随所に設けた。
- 4) 本文を理解するうえで重要な概念や用語については、「補説」で丁寧に解説した。
- 5) 歴史上の著名な人物を取り上げ、世界史上に果たした意義や興味深いエピソードを記述したコラム「key Person」を随所に設けた。
- 6) 生徒が各時代における世界と日本を関連付けながら学習できるよう、世界と日本の関わりを示す事例を取り上げたコラム「世界と日本」を随所に設けた。また、各見開きの右端にインデックスを設け、それを後見返しの「日本の歴史」年表に照らし合わせることで、各見開きで扱っている時期におこった日本史上の出来事を確認できるようにした。
- 7) 生徒が地理的条件と関連付けながら世界史を学べるように、第 1・2 章の「歴史の舞台」でそれぞれの地域世界の自然環境を概観できるようにした。
- 8) 生徒が興味・関心をもって主体的に世界史学習に取り組めるよう、各見開きの冒頭などに、図版を活用して考えさせる「考えてみよう」や作業させる「やってみよう」という問いかけ文を置いた。
- 9) 生徒が学んだ知識を活用して自ら課題を発見し、その解決に向けて探究し成果などを表現するために必要な思考・判断・表現力を養うため、「模擬国連」を事例とした主題学習のページを設けた。
- 10) 各世紀の諸地域の関係・交流を概観できるよう、折り込み「古代の文明と各世紀の世界をみてみよう」を設けた。

- 11) 模式図的な地図を用い、視覚的に前近代の学習内容を概観できる「まとめページ」を設けた。
- 12) 各見開きの左端に入っている年号・出来事の印を、表見返し裏の「世界史チャート」に照らし合わせることで、各見開きで扱っている内容が世界史上のどの時期に位置するのか、また同時代の諸地域ではどのような王朝や国家が栄えていたのかを確認できるようにした。

## 2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
世界史へのいざない 自然環境と歴史	(1)世界史へのいざない ア 自然環境と歴史	p. 6	0.5
日本列島のなかの世界の歴史	イ 日本列島の中の 世界の歴史	p. 7	0.5
第Ⅰ部 ユーラシアの諸文明 第1章 ユーラシアの諸文明と 交流	(2)世界の一体化と日本 ア ユーラシアの諸文 明	p. 8～63	14
第Ⅱ部 一体化する世界と日本 第2章 一体化に向かう世界と 日本	イ 結び付く世界と近 世の日本	p. 64～91	10
第3章 ヨーロッパ・アメリカの 諸革命と世界の変動	ウ ヨーロッパ・アメ リカの工業化と国民 形成 エ アジア諸国の変貌 と近代の日本	p. 92～125	15
第Ⅲ部 地球社会と日本 第4章 現代世界のあゆみ	(3)地球社会と日本 ア 急変する人類社会 イ 世界戦争と平和	p. 126～159	15
第5章 第二次世界大戦後の世界	ウ 三つの世界と日本 の動向 エ 地球社会への歩み と課題 オ 持続可能な社会へ の展望	p. 160～183	8
		計	63